

ポスターB-1**ポスター発表(実践)****就学前の子どものための楽しい文字・語彙導入教材作成**

野崎斐子・橋本匡子(公益財団法人東京YWCA)

【実践の場の特徴】

東京YWCA日本語・学習支援「いちごの部屋」には、幼児から中学3年生までの外国につながるのある子どもたちが来室している。来日したばかりの子どもから日本生まれの子どもまで、日本での生活経験はさまざまである。それぞれの子どもに合わせた日本語、学習支援をしている。一つの空間を、年齢も言語も、経験も異なる子どもたちが共有し、お互いが相手の文化・習慣をごく自然に尊重する楽しい場所となっている。また希望する保護者には日本語学習支援も行い、新しい土地での育児の不安を軽減する役割も果たしている。

【実践の目標】

近年就学前の子どもたちへの日本語支援の必要性が言われ始めた。幼児向けの市販の教材はあるが、外国語としての日本語教材という立場からみると、使い勝手がよくない。母語の文字の読み書きも十分にできない就学前の子どもにとって、曲線の多い、絵のような日本の文字は親しみにくい。入学時の子どもの負担を少しでも軽減するために、楽しく日本語の文字が習得できる教材作成を目標としている。

【具体的な実践の内容とその過程】

最初に、曲線描き、形の違い識別などをおして、ひらがな習得の基礎作りをする。そして次段階では、イラストとひらがな語の線結び、ワードサーチ、また日本の伝統的な遊びであるしりとり・すごろく・かるたなど外国語として考えられた日本語教材で、読む力と同時に語彙力の強化も図る。「日本語は楽しい」というイメージが形成され、習得意欲につながっている。

【結果と考察】

就学前の子ども、来日直後の子どもは大きく4つに分けられる。①全く文字に興味を示さない②すでに親から練習させられ文字が嫌になっている③最初は興味を示すがすぐ飽きてしまう④積極的に受け入れる。①②の子どもたちは、楽しく文字を見分ける作業を通して、自分の名前前のひらがな・カタカナが識別できるようになると、心に変化が見られるようになる。この時期に絵本の読み聞かせなどを併せておこなうと、③の子どもたちも文字に対する興味を引き起こされるようである。